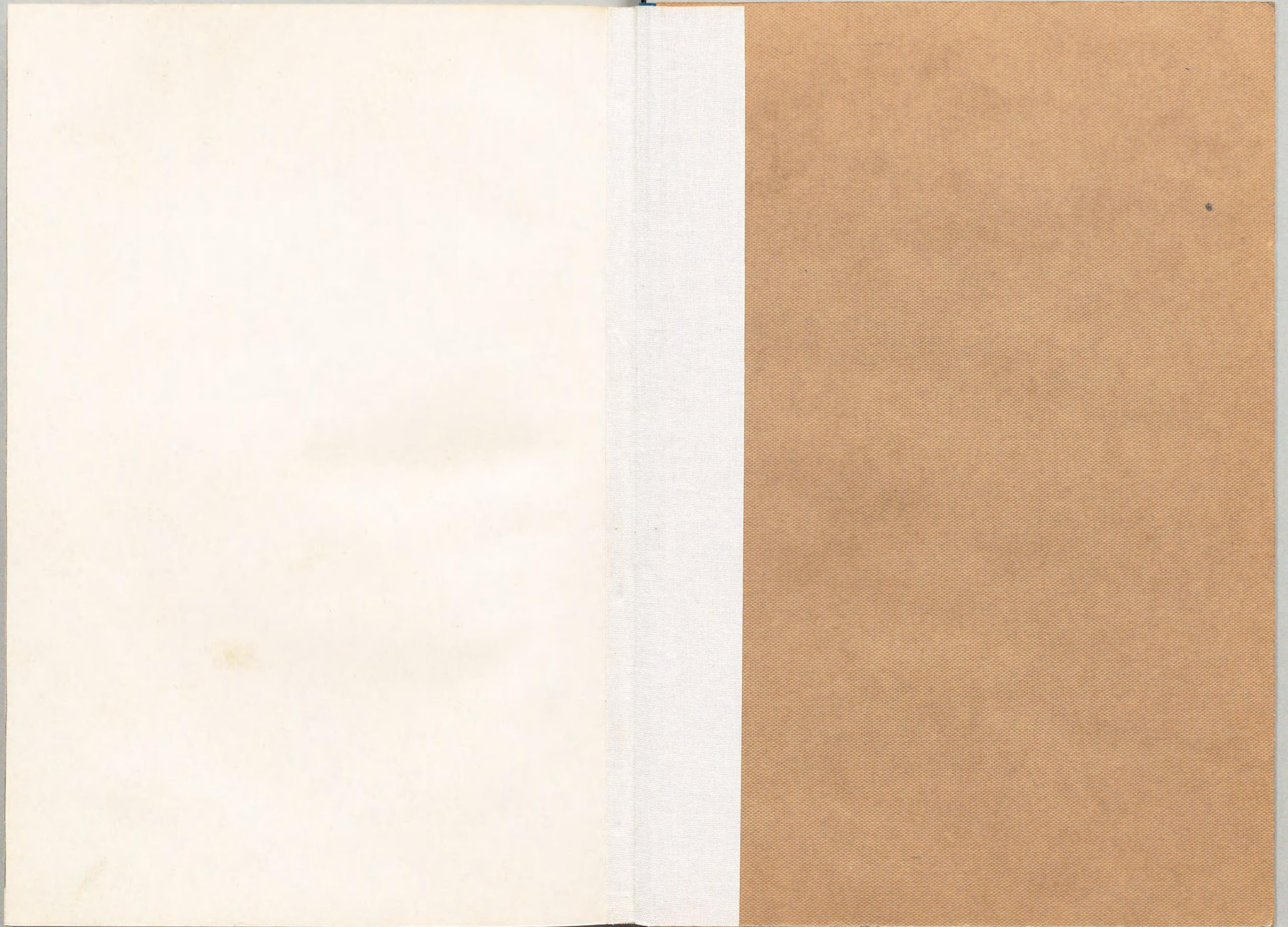


GB186
51
84W00937





征韓起原

463
163



074

1872

8522

GB186
51



84W00937

征韓起原

たのれ防長國郡志つゝ進ヲりニ及リ命ヲけテよリ西ノ國ヲ

の故事フルも尋ね考るとつゞニつゞニなリて長門の豊浦

郡カなる住吉荒魂神社カ神功皇后カ韓國を征伐カむニしテ時ノ

軍神カも同郡カなりト忌宮神社カやがてその皇后を齋ヒひテ祭リ

て今の世ニよリ至リて西の海の鎮メをシてハ何レなる御光

を波ノうチへテ輝ク外國ノ寇ヲハシ路ノ外ニやシひム

たニいハかシこトもハなリまシるニ學者トもハ其ノ役ヲ無ク乃

6522

寄贈

中堂觀更殿

血^{キミ}及其國^{クニ}必^{カナラ}自^{ヨリ}服^ス矣^{ナリ}復^タ熊^{クマ}龍^{リウ}襲^シ為^シ服^ス中^{ナカ}畧^{カク} 天皇^{チカミ}聞^ク神^{カミ}言^{ハク}有^リ疑^ヒ之^{コト}情^シ
便^{マシ}登^ル高^{タカ}岳^{タケ}遙^シ望^ム之^{コト}大^{オホ}海^{ウミ}曠^{カウ}遠^{トウ}而^{シテ}不^レ見^ル國^{クニ}於^テ是^ニ天^{チカミ}皇^{ミコ}對^シ神^{カミ}曰^ク朕^{ミコ}周^シ望^ム
之^{コト}有^リ海^{ウミ}無^ク國^{クニ}豈^カ於^テ大^{オホ}虛^{ウソ}有^リ國^{クニ}乎^ヤ誰^{ナニ}神^{カミ}徒^タ誘^ヒ朕^{ミコ}中^{ナカ}畧^{カク} 時^{トキ}神^{カミ}亦^モ託^ス皇^{ミコ}
后^{ミコト}曰^ク如^シ天^{チカミ}津^ツ水^{ミヅ}影^{カゲ}押^シ伏^ス而^{シテ}我^ガ所^ヲ見^ル國^{クニ}何^ニ謂^フ無^ク國^{クニ}以^テ誹^ヒ謗^ス我^ガ言^{ハク}其^レ
汝^ニ王^ノ之^{コト}如^シ此^ノ言^{ハク}而^{シテ}遂^ニ不^レ信^ス者^{ナリ}汝^ニ王^ノ不^レ得^ル其^レ國^{クニ}唯^ニ今^ノ皇^{ミコ}后^{ミコト}始^メ之^{コト}有^リ也^{ナリ}
其^レ子^コ有^リ獲^ル焉^{ナリ}然^レ天^{チカミ}皇^{ミコ}猶^モ不^レ信^ス以^テ強^ク擊^ツ熊^{クマ}龍^{リウ}襲^シ不^レ得^ル勝^ト而^{シテ}之^レ心^{ココロ}を
韓^{コリア}國^{クニ}之^レ役^{ツク}之^レ起^ル原^{ハジメ}乃^ハけ^テ然^ルる^{ヨリ}文^フ小^チ韓^{コリア}國^{クニ}之^レ金^{カネ}銀^{ギン}之^レ多^ク也^{ナリ}
三^ニ室^{ムロ}之^レ國^{クニ}也^{ナリ}を^シもの^ヲを^シ討^ツり^取り^て之^レを^シ熊^{クマ}龍^{リウ}襲^シ空^{カラ}を^シ欲^ス

一^ニも^シ彼^カ新^{シン}羅^ラと^シな^シ從^フへ^ル此^ノ襲^シ曾^{ソウ}た^ハの^ツ服^スいた^ン也^{ナリ}
ら^ニ神^{カミ}の^レ告^ツを^シし^テ不^レ記^スや^ルと^シな^シを^シ討^ツて^シ悔^ハみ^テ神^{カミ}慮^シ長^ク
を^シ治^メんと^シは^シあ^ラず^ニ利^ヲを^シる^ヲも^シ御^{ミコト}告^ツの^レ如^シく^シ聞^クえ^テい^ハふ^{コト}を^シ
い^ハふ^{コト}の^レ名^ナか^シ貪^ヒ欲^ス不^レ義^ナなる^{コト}を^シし^テ神^{カミ}の^レ告^ツを^シし^テ誠^{マコト}不^レ
此^ノ文^ノの^レま^ニなら^んも^シ無^ク名^ナの^レ戰^ツあり^しとい^はん^{コト}も^シわ^らば^らは^らし^{コト}を^シて
ま^ニは^シ傳^ヘ所^ヲ以^テある^{コト}事^ヲを^シて^シ論^ヲを^シて^シん^{コト}を^シて^シ神^{カミ}代^ヲ紀^ス
小^チ素^ス戔^{ツク}彥^{ヒコ}鳴^ネ尊^{ミコト}帥^シ其^ノ五^{イヒ}十^ト猛^{マウ}神^{カミ}降^ル到^リ於^テ新^{シン}羅^ラ國^{クニ}居^ル曾^{ソウ}尸^シ茂^シ利^リ之^レ
處^ニも^シ素^ス戔^{ツク}彥^{ヒコ}鳴^ネ尊^{ミコト}曰^ク韓^{コリア}鄉^ノ之^レ島^{トシ}是^レ有^リ金^{カネ}銀^{ギン}若^シ使^フ吾^ガ見^ル所^ヲ御^{ミコト}之^レ國^{クニ}不^レ有^リ

塵輪ウセヌルハ魚悦也、イカハシタリケン、御川流失ニ当ラセタマヒテ、

二月六日終ニ山崩御ナリシカバ、一天早暮ニケリ、三光既ニ無キカ

如シ、二月六日即癸卯朔丁未の明、日少て仲哀紀不合ヘリ、と云フ塵輪ハ熊襲の事を傳

（ひりたるものなり、あ不此書の事下

古事記ハ天皇坐筑紫系之訶志比、宮將軒熊曾國之時、天皇

控御琴而建内宿禰大臣居於沙庭、請神之命、於是太后敏

神言教覺詔者、中畧尔天皇答曰、登高地見西方者、不見国土

唯有大海、謂為詐神、而押退御琴、孰坐尔其神、大念詔允

茲天下者、汝非忘知國、汝者向一道、於是建内宿禰大

臣白、恐我天皇猶阿羅波勢、其大御琴、爾補取衣、其御

琴而那摩々々、通控坐故、未几久而不聞御琴之音、即

舉火見者、既山崩訖、所見、八年中神教、未几して熊襲と云ふは、昏紀の如く、得勝、

わたり、昏紀ハ上件ハ載ル如ク、得勝、師を班し、い

る、九年二月、ニハカ山崩、カハサリた、ニハカ昏の記、カハサリ所、カハサリ以

て、カハサリ昏紀の如く、カハサリ他の昏、カハサリ藉も、カハサリ比、カハサリ校、カハサリふ、カハサリな

不昏紀の如く、カハサリ然、カハサリ由、カハサリや、カハサリ何、カハサリん、カハサリ能、カハサリ襲、カハサリ痛

矢串の御病ふりてせむりて神は出りもつと男子
疑を容へし

かく天皇をすく杖をもつてつらねぬ魚曾いふる者をとつた

ふ、皇行紀小十二年三月謀討熊曾於是天皇詔群卿曰

朕聞之意國有厚鹿文迹鹿文者是西人熊意衣之渚木

帥也衆類甚多是謂熊曾八十泉帥其鋒不可當焉と云が

物あるを始と能龍といふ龍國は住して猛賊なるかみ

九 他よりつける名にて自ら行つた号よありて自ら行つた名は厚鹿

一。文迹鹿文ふと、其外も八十泉師といふ名をのりて、日本と名

のるに、いともかゝりて、意國と、神代紀小日向龍と云

つるに、同じ地名と、名義、古語拾遺に、天鈿女命、古語天乃

於復、其神強悍猛固、故以爲名、今強女謂之於復志、云この

於復、同じ、鮫音、源氏物語の帚木、かくあまきし、い

い、き、髪、あ、く、も、た、え、て、ま、え、と、い、つ、た、い、も、い、と、い、人、気

の、い、と、猛、き、國、な、る、ゆ、ゑ、龍、と、い、つ、た、い、と、神、代、紀、の、龍、と、

古訓、い、と、訓、ま、も、能、曾、と、い、つ、く、時、才、を、省、中、と、い、つ、く、意、と

大和よりよき、国号考よ
りよき従ふべし。

正しく、和の字のあはれやうなすも

粗を以て、夜麻登^{ヤマノト}と和を借り用ひるも、彼方

傳ハス、和ハワシ、こゝろニ字トモ、夜麻登^{ヤマノト}トモ、言^{コト}トモ、字^ジトモ

と思ひて、かゝりて、ミコノ皇カの大号^{ミコノミカド}トモ、用ひし、一國^{イツクニ}の夜麻

登^ト、後漢^{コト}、晉^シ、魏^ミ、志^シ、耶^ヤ、馬^マ、皇^ス、隋^ス、各^ト、北^キ、史^シ、ヤ、トモ、耶^ヤ、麻^マ、堆^ト、

カキテ、別^マ、此^コ、方^ノ、例^リ、トモ、カ、モ、ハ、混^マ、ハ、

能^ユ、人^ヒ、意^カ、表^ス、徒^ニ、の^ノ、漢^ノ、土^ノ、トモ、往^キ、来^ル、者^ノ、各^ト、和^シ、カ、リ、カ、ケ、ル、

ん、こ、お、の、つ、彼^ノ、方^ノ、トモ、傳^ハ、ス、和^シ、カ、リ、カ、ケ、ル、ト、つ、ひ、鳥^ノ、禾^ノ

切^リ、と、音^ノ、を、轉^シ、リ、テ、用^ヒ、ル、也、但^シ、皇^ノ、國^ノ、トモ、書^キ、籍^ト、

和^シ、字^ト、を、各^ト、用^ヒ、ル、今^ノ、傳^ハ、ス、田^ノ、令^ノ、官^ノ、田^ノ、大^ノ、和^シ、撰^リ、津^ノ、各^ト、三^ノ

十^ノ、田^ノ、丁^ノ、と、あ、る、を、行^キ、け、、各^ノ、紀^ノ、の、崇^ノ、神^ノ、天^ノ、皇^ノ、五^ノ、六^ノ、年^ノ、の、件^ノ、ト、

國^ノ、史^ノ、政^ノ、事^ノ、要^ノ、畧^ノ、等^ノ、ト、引^キ、用^ヒ、ル、傳^ハ、ス、用^ヒ、ル、也、、和^ノ、大^ノ、國^ノ、魏^ノ、と、ん、を、一^ノ、也、と、二^ノ、類^ノ、聚^ル、

傳^ハ、ス、、和^ノ、字^ノ、の、古^ノ、各^ト、トモ、元^ノ、を、始^メ、令^リ、け、、今^ノ、大^ノ、室^ノ

中^ノ、撰^リ、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、既^ニ、宣^シ、化^シ、欽^シ、明^シ、の、御^ノ、代^ノ、也、、孰^シ、

る^ノ、字^ト、ち、る^ノ、由^ノ、を、用^ヒ、ル、也、、各^ノ、号^ノ、考^ル、也、傳^ハ、ス、和^シ、

いつ^ノ、の、御^ノ、代^ノ、より、考^ル、る^ノ、也、、各^ノ、部^ノ、止^ル、邊^ノ、の、神^ノ、作^ル、也、、天^ノ、平^ノ、勝^ノ、室^ノ、改^メ、

為^シ、大^ノ、和^シ、と、元^ノ、拾^リ、芥^リ、枚^リ、も、天^ノ、平^ノ、勝^ノ、室^ノ、年^ノ、月^ノ、日^ノ、改^メ、大^ノ、和^シ、と、

ら、、後^ノ、世^ノ、の、尺^ノ、分^ノ、を、と、も、と、し、る^ノ、也、、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、

傳^ハ、ス、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、

傳^ハ、ス、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、

傳^ハ、ス、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、

傳^ハ、ス、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、、、和^ノ、字^ノ、の、各^ト、用^ヒ、ル、也、

其後の昏どもは和字をのびた倭字となすの字を

の声は轉せるのこゝに事記すも倭を用ふるの字能意表が國号

たること知りて漢籍の倭といふ皆此方の事と尋問してらえてはあ

大号よか既鳥糸切の轉と和同音ならぬ故に幾内の夜麻登もか

るもの昏紀撰の時文字のゆゑ殊よりせられた倭字能

とよこをあらはして快 大号の夜麻登は日本の字を用ひて

りしぬ字とわたりけん 國号考に夜麻登といふ日本といふとを用ふる書紀よ

神代卷に日本此云耶麻騰下皆效此といふ訓注ありし書紀に漢

てかまはるる、但一畿内の一國のやまといふは倭といふは下
の大号のあ、日本といふ、又一あの名の時、あはけはうんかといひ
日本といふて、記中おありは例やといふ書紀に日本と
り字を夜麻登と訓ゆゑといふ下もつてあり

れども日本の字はもと蕃國につらう詔各の字は故よ

えんを比り毛登と訓ひ夜麻登といふ、自王國乃

内よその、秘し號せん日本の字を夜麻登といふ

ませり、昏紀のあやまらう、日本の字訓の、せんが

萬葉集よ外の昏ともお、ざつ日本日本の字をか

りかづらひ、な昏紀の誤をうけするものやうと知へ

してきて、倭奴の奴の音ヲナルと魏志に
 奴國と云ハ筑前之倭縣なるが如くナリ
 声の彼方の人の身ヲ又と云ふをるよと云、オナ
 を倭奴と云ふは、漢土にて海外諸島の
 号を記とよこなるの國人のいつる詞をそのま
 り皇國の假字の例の如く音をつづねて記し
 たるものなる此方ナリと云ふ声の彼方より又と
 云ふ人、まゝと云ふ然も、つづねて記すは、
 琉

球ハ皇國の内とて、そのま言も大く皇國人と
 曰く、中山傳信録に考ふるは、姑達住記為久高
 世麻記為文里島といふを、倭奴の奴、奴國の奴
 皇國の例の例、と云ふ。 倭奴の奴、奴國の奴
 と同音なること論ず、後漢書之倭國傳、建
 武中元二年倭奴國奉貢、朝貢使人自稱大
 夫、倭國之極南界也、光武賜以印綬、
 倭國の傳の内、よつて、をあると倭と倭奴と
 別り、ゆゑ、倭國之極南界也と云は、
 別り、ゆゑ、倭國之極南界也と云は、
 別り、ゆゑ、倭國之極南界也と云は、

ことわりなきものなり、異称日本傳子、倭國之極南界也と云す、非なり、極南界あり即

九州の南方にて琉球を證す、大日本史の中元二年

倭國奉貢然、本書无所見、恐非朝廷正命の事、

中元の奉貢ハ倭國なりと倭國と稱すは誤り、

後漢昏の位ありてのや、但本昏無所見と云、本

昏ハ昏紀の可なり、彼ありて此あるを以て、非朝廷正命と定む、

るいさ、山公の御明断なり、

後漢昏の倭國傳ハ、倭在韓東南大海中、依山島為居、凡百

餘國、自武帝滅朝鮮使、通於漢者三十許國、皆稱王世、

傳統、其大倭王居邪馬臺國、この大倭王とある即能大

童表、能童ハ先祖ハ分明らふ知らぬも、神武天皇中國より

つりまひ、後より筑此系を領す、天皇の都の夜麻登の号と稱

こ住處を邪馬臺と号け自ら倭王と稱して、漢より通つりとある

り、漢籍ハ所見ハ倭國ハ、筑此系島のりハ限する

号たり、魏志ハ始度一海千餘里、其大官曰

卑狗、副曰卑奴、離所居絶島、方可四百餘里、土地山險、

深林道路如禽鹿徑有千餘戸無良田食海物自治乘船東北
 市糴又南渡一海千餘里名曰瀚海至一大國官亦曰卑狗副卑奴
 毋離方可三百里多竹木叢林有三十餘家差有田地耕田猶不
 足食亦南北市糴又渡一海千餘里至末盧國有四十餘家濱一
 海居草木茂盛行不見前人好捕菓艱水無深淺皆沈沒取之
 東南陸行一百里到伊都國官曰赤支副曰泄謨觚括渠觚有
 千餘戸世有王比皆統屬女王國郡使往來常所駐東南至奴國百
 里官曰兜馬觚副卑奴毋離有千餘家南至投馬固水行十日
 奴佳靺可七萬餘戸

官曰赤支副曰赤支那利河五方餘戸南至邪馬其臺國女王之所都
 水行十日陸行一月官有伊支馬次曰弥馬升次弥馬獲支次曰
 奴佳靺可七萬餘戸

瀚海ハ玄界灘の事ナリ一大國ハ今詳ラズ代馭我慨言小
 北史小云一支部作焉もを岐行んハ瀚海ト云ふト云
 ハト云々云々後記云ハ云々ト云々末盧ハ肥前の
 松浦伊都ハ筑前の怡土郡之序ハ云々年この郡の
 人地を掘て金印一顆を得其文ハ漢委奴國王印也

游ハ幡の坐と地ヲ、投馬國ハ肥後國託麻郡の事ナ
 一、馭戎概言ハ、奴國不狝國投馬國ヤ、漢吳
 音ハ更トモイ、及今の唐音トモイ、大和ノ名、
 所の名も何ともナリ、
 子、如ク筑紫の内地名ナレ、長門以東、
 隨俗の倭國傳、東至一支國、又至
 竹斯國、又東至秦^{スハラ}王國、其人同於華、夏と云、
 清の皇朝の御使と共に來ル、竹斯^{ツクシ}

秦^{スハラ}王不到、秦王の道^{ミチ}の^{ミチ}記^キも、
 漢籍に見え、始々、
 州^{シウ}に限^{リミ}る、
 相^{サウ}、
 女^メの都^ト、
 肥後日向大隅の、
 地名も、
 肥後、
 日向大隅、
 地名も、

筑後小境を接して日向の方へ停するやうに在るを今といひて論るべき
 所ぬ上代を何種菊池益城託すの四郡共其島のうへに屬て、
筑紫國豊前國肥國熊耳國と今の
 九州を四國とわらうる中せ、熊耳を領け國のぬりしき、
 能意國といつた後の日向の南方半國をわたり大隅薩土の地までも
 まで上代の大名なりとていふも、
 領けし國をいふも、
 意國ありしをいふて菊池郡の山門能意の住所なりと
 中より二件いふ如く天皇の御座を大和の号と借して、
ヤマト ヤマト

あふ筑後世までも地名よりさるるが、
 蘇山其山無敵火起接天者俗に為異因行禱祭と皇國の内は
 不尽溪間其外名出多のを殊に何種をいふも、
 をいふて、
 又耶馬臺をいふも水信の里程な、
 揚座より、
魏志に建武元年倭國の事あり、
 水行せんは、

といふ耶馬臺即倭王熊意の住所なり、
 後、
 桓帝問倭國大

乱更相攻伐歷年无主有一女子名曰卑弥呼年長不嫁事
鬼神道能以恍惚中於是共立為王侍婢千人少有見者唯有
男子一人給飲食傳辭語居處宮室樓觀城柵皆持兵
身衛之云云了桓靈共為後漢未之主本朝成務天皇の
御代ありし是より先景行天皇の十二年十二年ふつて能襲
と征伐しむひ十八年より筑紫の由の從ひる者を征伐しむつ
こと各紀より由を桓靈尚侍國大乱しりてをあらはし
よてこの女王卑弥呼と神功皇后の事ことなまつ人もあらはと
三七

三八
いふ所なりしを晋昏ハ其家曰以田刀子為主漢末倭人
乱攻伐不定乃立女子為王名曰卑弥呼宣帝之孫也
其女王遣使至武帝方朝見其後貢聘不絶及武帝作親又教至この宣
帝前漢の主の事にて本朝崇神天皇の御代ありし但上件はしり
後漢昏ありしを卑弥呼ハ桓帝而武帝の間の人にて宣帝
といふ所なりし二百餘年ハ後まつるを晋昏ハ宣帝の代ハ倭
王卑弥呼の使を遣はせりて傳聞の誤ともあらはし前
漢昏ハ浪海中に倭人分為百餘國以歲時來獻見といふ

いつ世の代とていふは、前漢なりか疑はるるをいふや卑

弥呼の朝貢をばとていふ、即宣帝の時の事なりとん歟、宣

帝の本朝より山宗神天皇の御代よりいふは、いふべき事な

るを、その御代よりいふ、卑弥呼、桓帝靈帝の比までいふ

さふらひ、代々を主として卑弥呼と稱ひ、いふや、下はひる三國

の阿達羅尼師今の二十年の件は、海王卑弥呼は、彼王の二十年、成務天

皇の三十六年よりいふ、桓靈の主は、卑弥呼といふなり、史記の新羅

を、宣帝の時の卑弥呼と桓靈の代の卑弥呼と別なり、たれ

三九 す、少、白、く、は、 按、小卑弥呼は、姫也、て女子の稱なり、宣帝の代の卑弥呼

四、け、ろ、ま、や、す、く、は、次、お、引、く、所、の、壹、與、あ、ら、う、一、く、

卑弥呼といふ名は、代々同稱なり、か、く、卑、弥、呼、と、い、ふ、女、王、の、名

漢土に能く聞え、其後、壹とていふ、魏、志、に、立、り、と、い、ふ、

代に女主のよの如く、魏、志、に、立、り、と、い、ふ、 彼より女王國と稱する

一、東、海、姫、氏、國、と、い、ふ、 魏志倭人傳、景初二年

六月、倭女王遣大夫難升米等詣、即求請天子朝、獻太守

劉夏遣使將送詣、魏、志、に、立、り、と、い、ふ、 其年三月詔、答報倭女王曰、別詔親魏

倭王卑弥呼、帶方太守劉夏遣使送汝、大夫難升米、次使都

市、牛、刺、奉、汝、所、獻、男、生、口、四、人、女、生、口、六、人、班、布、二、匹、犬、以、到、汝、所

在踰遠乃遣使貢獻是汝之忠孝我甚哀汝今以汝為親魏
倭王金印紫綬封付帶方太守假授汝其綬撫種人勉為孝
順汝來使雜升米牛利涉遠道路勤勞今以雜升米為九斗
善中即將牛利為九斗善校尉假銀印青綬引見當賜遣還今以
絳地文氈錦五匹絳地綿粟四割十張倩絳五十匹緝青五十匹
答汝所獻貢真又時賜汝組地句文錦三匹細班草割五張白
絹五十匹金八兩五尺刀二口銅鏡百枚真珠鉛丹各五十斤皆
裝封付雜升米牛利還到錄受亦可以示海國中人使知因

家哀汝故鄭重賜汝好物也今名魏の景初二年、神功皇
后撰改三十八年あり、神功紀三十九年の細注に魏志を引いて雜升米
魏の使を事と載たす、魏志を考るに
三年のり、二年のり、その紀の三十九年より四十二年迄、故に
この魏志よりして晉加へり、そのまを本あり、除くべし、
この魏志に、阜弥呼、桓靈の比、たつて同くなる、ミ
同くなる、桓帝の建和元年より、明帝の景初二年ま
て九十年餘、隔り、ハ甚しく、ハ長壽のく、ハ長命、ハ決て
同く、ハあ、ハ上、ハ件、ハ如く、ハ阜弥呼、ハ代、ハ女王の
通稱、ハて、ハその名別、ハあり、ハ魏志曰、正始元年、太

守子遣遣遣中校尉材備等奉詔各印綬詣倭國拜假倭王
 拜命詔賜金帛錦綉刀鏡朱物倭王因使上表答謝因詔云
 正始元年本朝之神即皇后四十年也朝廷亦以是漢
 字をよむ人もありしなり漢字の皇國にはいふも天
 皇の事也然るに倭王因使上表答謝を以て上表の文を以て
 作る人ありて其の一事とも皇朝の事ありてめらるる
 能意なく早くも漢土に通じて彼方の風俗あるを以て漢文な
 りと云ふべし

て倭王といひしはがもとを以て使を以てしむるなり
 其四年倭王復遣使大夫伊聲耆掖邪狗等八人上獻生口倭
 錦緋青繅絲衣帛布丹水拊短弓矢掖邪狗等壹千九百
 善中即將印綬也同昏小其六年詔賜倭難升米黃障付郡
 假授也同昏小其八年太守王頌到官倭女王卑弥呼与狗
 奴国男王卑彌弓呼素不知遣倭載斯鳥等詣郡相攻擊
 狀遣塞曹掾三張政等因有詔昏黃障拜假難升米為徽
 告喻之卑弥呼以死大作家徑百餘步殉葬者百余人卑弥呼王

國中不投更相誅殺當時殺千餘人後立卑弥呼宗女壹与年
 十三為王國中遂定政等以檄告喻壹与々々遣使大夫九十番
 即將邪狗等二十人送政等還因詣臺献上男女告三十人貢
 白珠五千孔音大白珠二枚異文雜錦二十疋とんゆの八年ハ
 魏の正始八年より本朝神功皇后の四十七年子當ふ今年
 卑弥呼死して其女壹与継立ちしより百五十年りんと
 漢土の性来見えしより三韓を通ひし事々々三國史記
 東國通鑑等ハ二二所見し但二各の年紀合つた事多

くて今詳々いひしと三國史記ハ新羅始祖三年夏
 五月与倭國結好文聘しつ脱解尼師今とみ玉の三年なり
 まる東國通鑑ハ新羅始祖八年漢年露四年倭来寇也聞王有
 神德乃還漢年露四年ハ崇神天皇の四十八年なり然ル三國史記ハ
以下史記より三國史記二年倭人侵木出島崇神天皇
通鑑より東國通鑑史記ハ二十一年
通鑑ハ始祖三十八年漢賜嘉春二月新羅遣使聘
通鑑ハ馬韓中公木倭人初以靴渡海而來故号焉二ハ垂仁天皇の
史記ハ祇戸尼師今立十年四月倭人侵東也十一年夏四月

大風東来、折木飛瓦、至夕而止、都人訛言、倭兵大来、幸道山

谷王命伊豫、翌宗等諭止、十二年春三月、倭國講和、

十年上、年三十四、重仁天皇、
の三十四年あり、
まゝ通鑑に、新羅脱解王十七年、
後

永平十、
六年、夏五月、倭侵新羅、木出島王遣弟于羽島、
不

克死之、
カ三年あり、
まゝ史記に、阿達羅尼師今立、五年春、
倭

人奉聘、
ニ十年あり、
二十年夏五月、倭女王、
遣使来聘、

元成務天皇の三十六年、
とあり、
天智の三十六年あり、
軍孫呼とあり、

とあり、
天皇の三十六年あり、
軍孫呼とあり、
皇后の成務天皇

四七

四八

の四十年、
十年六月、
神功皇后の征伐、
う倭と、
國ち、
自の倭王と、
王と、
師今、

の四十年、
十年六月、
神功皇后の征伐、
う倭と、
國ち、
自の倭王と、
王と、
師今、

の四十年、
十年六月、
神功皇后の征伐、
う倭と、
國ち、
自の倭王と、
王と、
師今、

の四十年、
十年六月、
神功皇后の征伐、
う倭と、
國ち、
自の倭王と、
王と、
師今、

勢を振ひ、うゝも朝廷に叛き奉り、と仲哀天皇は、いふ所

征伐ありんとせしむる異國の援兵を加へ、熊意を

軍の勢いを得勝るとして、終に山崎をとり、神の自ま^{カミサ}熊

意がたえ、極るに、^{カフシニ}韓の援けあり、と察め、

いさづ、あまを討滅し、その羽を、とくばそ、^{アキウ}果元

と、^{カミサ}穿つへ、とて、昔備臣祖鴨別を熊意を押し、

こゝにおき、^{カフシニ}韓の押しあり、^{カフシニ}韓の押しあり、

臣祖別、^{カフシニ}熊意を、^{カフシニ}熊意を、^{カフシニ}熊意を、

五。甲より別を彼り押し、ての、^{カフシニ}韓の押しあり、

自腹を、^{カフシニ}韓の押しあり、^{カフシニ}韓の押しあり、

何事も、^{カフシニ}韓の押しあり、^{カフシニ}韓の押しあり、

豊臣太閤の、^{カフシニ}韓の押しあり、^{カフシニ}韓の押しあり、

んと、^{カフシニ}韓の押しあり、^{カフシニ}韓の押しあり、

氣とす、^{カフシニ}韓の押しあり、^{カフシニ}韓の押しあり、

ら、^{カフシニ}韓の押しあり、^{カフシニ}韓の押しあり、

故に、^{カフシニ}韓の押しあり、^{カフシニ}韓の押しあり、

賊津使主と審神と、^{カフシニ}韓の押しあり、^{カフシニ}韓の押しあり、

かるべきを神代の故事に依て解きしむ神代の眞告を其初に
 其の金銀多きを玉を付しよりより詔ひし卒といふは
 欠つしものなるべし其の事なるは豊年卒の瑞穂亦
 といひてば一と飽ひ是る事を知りしなるは何の不足ぬ
 事ありしとて金銀を破くもその事なるは顔るは海みか人
 と云らるるは元元と皇臣の聰明睿智よりその聖君の
 事なるは一人の強弱ありし事なるは
 三韓の王もこの時より於て熊羆より外に大八洲を

四はの至尊と云ふは元皇の徳と云ふは事を知りてか
 服ひしと云ふは棹尾をぬいた船の首物を献すべく約束まつ
 事なるは熊羆の熱い事なるは朝迄に從ひし事
 なるは漢土の親び討爵と云ふは受さけり南史に
 晋安帝時有倭王讚遣使朝貢及宋武帝永初二年詔曰倭
 讚遠誠宜甄可賜除授文帝元嘉二年讚又遣司馬曹達奉
 表献方物讚死弟珍立遣使貢献自称使持節都督倭百

治新羅位耶秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭國王求
除止詔除安東將軍倭國王珍又求除止倭浦等十三人乎西征
屠冠軍輔將軍等号詔並听之也此熊竟衣の偽倭王讚死し
て才珍のち自使持節都督
云々と稱し止除れんことを求りて除止の持節都督とす六國諸軍事
とす安東大將軍とすもいふは補佐の号ゆゑ宋王とすくそんは職
を補佐せられしなり次二十年倭國王海遣使奉獻後以為安東
將軍倭同王二十八年加使持節都督倭新羅位耶加羅秦韓慕韓六
韓六國諸軍事安東將軍如故拜除所上二十三人職海死子綱遣
使貢獻孝武大明六年詔授興安東將軍倭國王興死才武立

自稱使節都督倭百濟新羅位耶加羅秦韓慕韓七國諸軍
事安東大將軍倭國王順帝自升明二年遣使上表自昔祖祚躬
擐甲由日跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服血夷六十
六國陵平海北九十五國王道融秦廓土遐几累葉朝宗不愆
于歲道運百濟裝飾船舫而勾麗无道圖欲見吞臣亡考
濟方欲大舉奄表兄使垂成之功不獲一篲今欲練兵申
父兄之志竊自假開府儀同三司其餘咸各假授以勸忠節
詔徐武使持節都督倭新羅位耶加羅秦韓慕韓六國

諸軍事、安東大將軍、任三奇、建元中、除武持節、都督、任新羅、任

那加羅、秦、韓、百濟、六國諸軍事、鎮東大將軍、漢武帝即位、追武

号、征東大將軍、自昔祖祚、以功忠節、あるとして百三十三、能大能

誤記、多きや、通、り、き、処、あり、今、宋、昏、み、して、在、を、比、校、す、ハ、臣、亡、考、海、下、突、念、

在、諒、闇、不、勤、兵、甲、是、以、優、怠、未、批、至、今、と、あり、故、字、つ、き、く、ハ、一、貫、の、下、居、

不、引、る、ハ、い、く、く、二、省、り、と、ん、中、に、知、ま、る、を、省、き、は、る、く、西、し、は、故、自、一、と、い、を、

安帝、仁德天皇の八十五年、即位、元、允恭天皇の七年、子、死、を、魏

志、志、ハ、所、見、と、壹、と、ハ、後、ハ、衰、微、して、漢、土、ハ、通、り、事、も、な、る、お、り、

ハ、一、と、仁、德、允、恭、の、御、代、より、して、讚、と、ハ、者、任、三、奇、と、ハ、更、ハ、日、好、と

五五

五六

つ、つ、ハ、度、ハ、朝、貢、を、し、た、く、が、て、宋、武、帝、の、永、初、二、年、本、朝、お、て、允、恭、天、皇、

十、年、お、り、り、文、帝、の、元、嘉、三、年、同、天、皇、の、五、十、年、ハ、多、く、二、十、年、ハ、同、天、皇、乃、

二、十、二、年、お、り、り、二、十、八、年、ハ、同、天、皇、の、四、十、年、ハ、孝、武、の、大、明、六、年、ハ、雄、略、天、

皇、の、六、年、お、り、り、順、帝、の、昇、明、二、年、ハ、同、天、皇、の、二、十、二、年、お、り、り、

讚、ハ、後、を、の、才、珍、立、ち、珍、ハ、後、子、清、ハ、清、ハ、後、子、興、ハ、興、ハ、後、才、武、立、

ち、り、り、の、間、に、な、借、り、て、倭、王、と、稱、り、彼、ハ、通、り、て、六、國、諸、軍、事、及、安、東、

鎮、東、や、り、り、の、將、軍、の、号、を、假、り、三、韓、其、外、の、皇、朝、の、外、蕃、を、漢、土、

の、威、を、以、て、自、ら、の、麾、下、に、つ、ら、ん、と、せ、り、

語に「...」
 此の由一も...
 大ハ海紆ス（市ハナク）
 朝アサ服ヒツて...
 忘れぬ志...
 此の業を食い...
 隨ツ俗ソクと考る...
 雞ニ許コ遣シ使シ詰ツ謝シ...

不フ無ム意イ義ギ...
 此の市名シの天足テンソク...
 ことと取ク式シキ概ガイ言ゴン論ロン...
 名ナ子シ...
 大官ダイカンの市使シ...
 其コノ因イン号ガウ阿ア華カ雜ザ...
 りていつなるべし...
 中ナカ外ガイより...

子於此以て大い海を知りて天子の尊大なるをえしむる事
 此の事も悦ひしうしむる事も理やうけんとしむる事も隋主のうら
 子所懐卿子信する言を此方の使使子対して无礼の事とてか
 しくあつてをこれに依てかきあつての使使子か意氣容息
 けりたりやも押して使使子の度能棄の使といひ
 ことしてまこと大の臣とせんをゆるぐ故隋主あやみて明年
 文林郎斐清等と本邦よりあつての使使子か意氣容息
 多善隣不宣記に経緯後傳記と引しては治田朝十二年歲

次甲子正月朔始用曆日。是時國家倉籍未多。爰遣小野臣因高、
 於隋同買米。倉籍果豐。聘隋天子。其昏日。日出。天皇致昏日。泣如
 天子。借場帝。吹之。不悅。猶怪其意。氣高。速遣清等十三人。送
 因高。兼理國風。とありて知られり。

然るに隋昏に變せ清等より知りて、
 德何事。甚。从。教。百。人。設。儀。仗。鳴。鼓。前。來。迎。後。十。日。又。遣。大。禮。等。多。
 毗。竺。百。餘。騎。如。帝。既。至。彼。都。其。王。与。清。相。見。大。悅。曰。我。聞。海。西。有。大。
 隋。禮。之。風。故。遣。朝。貢。我。夷。人。僻。在。海。隅。不。聞。禮。義。是。以。親。音。

高麗館之上六月壬寅朔丙辰客等泊于难波津是日以饒船
 三十艘迎客等于江口安置新館於是中臣官处連麻呂大河
 内直糠午船史壬平為掌客爰妹子臣奏之曰臣奏還
 之時唐帝以昏授臣杰經過百濟國之百濟人探以掠取
 是以不得上中畧秋八月辛丑朔癸卯唐客入京是日遣饒騎
 七十五匹而迎唐客於海石榴市饒額田部連比羅雄夫以告礼
 辞焉壬子召唐客於朝廷令奏使言時阿倍鳥臣物部
 依網連抱文為客之導者是唐國信物置於庭

中時使主非文世清親持書而度再拜言上使肯而立之中畧
 是時皇子諸王諸臣悉以金鑿華著頭亦衣服皆用錦綺
 織及赤色綾羅而辰御食唐客等於朝九月辛未朔乙亥御奉客
 等於难波大郡辛巳唐客非文世清罷飯とん、乃、當時のお不
 こゝの快と行そが知へし、

かくて後唐の世もあまを度し御使も遣はれし、
 うかちゆきては國人も漢より来倭と名つて通ひし、
 の佛使もあしけりしとよきを知らんとあはれて新唐書も用明書曰

目多利思比孤 隋開皇末始與中國通目字の上阿字を脱きり、目ハメの假字ハハル

阿目アモと訓て即天足考の義なり、目正モ、假字ヲ用ル、目音を以て、
開皇末とい、隋開皇十三年事とあるを指せるものなり、然レハ、
使臣として上件あり、然レハ、新唐書に、使臣と自ら稱するものあり、
て引る、殿載、概言の説のとく、目正の人の隋の時、始て通じ、唐人の呼ぶたり、
を以て、あとも、日記に、あつた、その時、能意表し、遣はせる使の、
自、然の佛使、みまね、れ、る、と、よ、み、を、わ、か、す、の、知、ぬ、を、と、も、ん、大業中、
始、ま、り、な、す、と、い、ひ、く、
いと、ゆ、り、
開皇末とい、隋と、
唐と、
日本と、
倭と、
別、
を、
建、
て、
日、

本國者倭國之別種、其人朝者、多自稱大不ニ定對、
意をよけち、
七三

十四 儀容なるものや、

いんふつニ考る、
日本ニと、
異、
あ、
子、
對、

稱、
日本、
天、
自、
記、
音、
と、
ん、
え、
て、
又、
解、
小、
大、
事、
宣、
於、
蕃、
國、
使、
之、
辭、
也、

と、
あ、
し、
蕃、
國、
と、
三、
韓、
を、
も、
如、
く、
朝、
を、
ひ、
來、
し、
異、
事、
の、
事、
也、

日本、
と、
不、
同、
な、
ら、
ば、
よ、
し、
と、
い、
は、
れ、
る、
今、
た、
に、
知、
ら、
れ、
け、
れ、
也、

孝、
德、
の、
大、
化、
元、
年、
の、
件、
ハ、
三、
韓、
の、
事、
詔、
各、
の、
式、
ハ、
明、
神、
御、
宇、

日本、
天、
皇、
と、
は、
今、
條、
の、
新、
制、
ハ、
あ、
り、
と、
い、
は、
れ、
る、
と、
い、

日本

朝の使の事なりと三韓にものかたる東方の國に
 その東方より通ひるるの海をわけていかに思ひては方より朝の
 使をよむかおもふも海といふこと方より北に
 くる井けを言ひて通をぬるけしゆもいふこと不審
 かつつをどよもやに内に住る能龍がもつるを朝の使が
 て海と稱しては通ひるることありて海といふこと
 あやしくもいふことありて事ぬるけしゆもいふこと海といふ
 本邦をぬかまらるるをぬるの号と稱しては通ひるることありて海といふこと

とまはしりけることありては方より通をぬる
 りて海を言ひて日本とては方より通をぬる
 りて海を言ひては方より通をぬる
 海の名を日本とて改めしむることをいふ事なり
 うぬゆもいふことあり

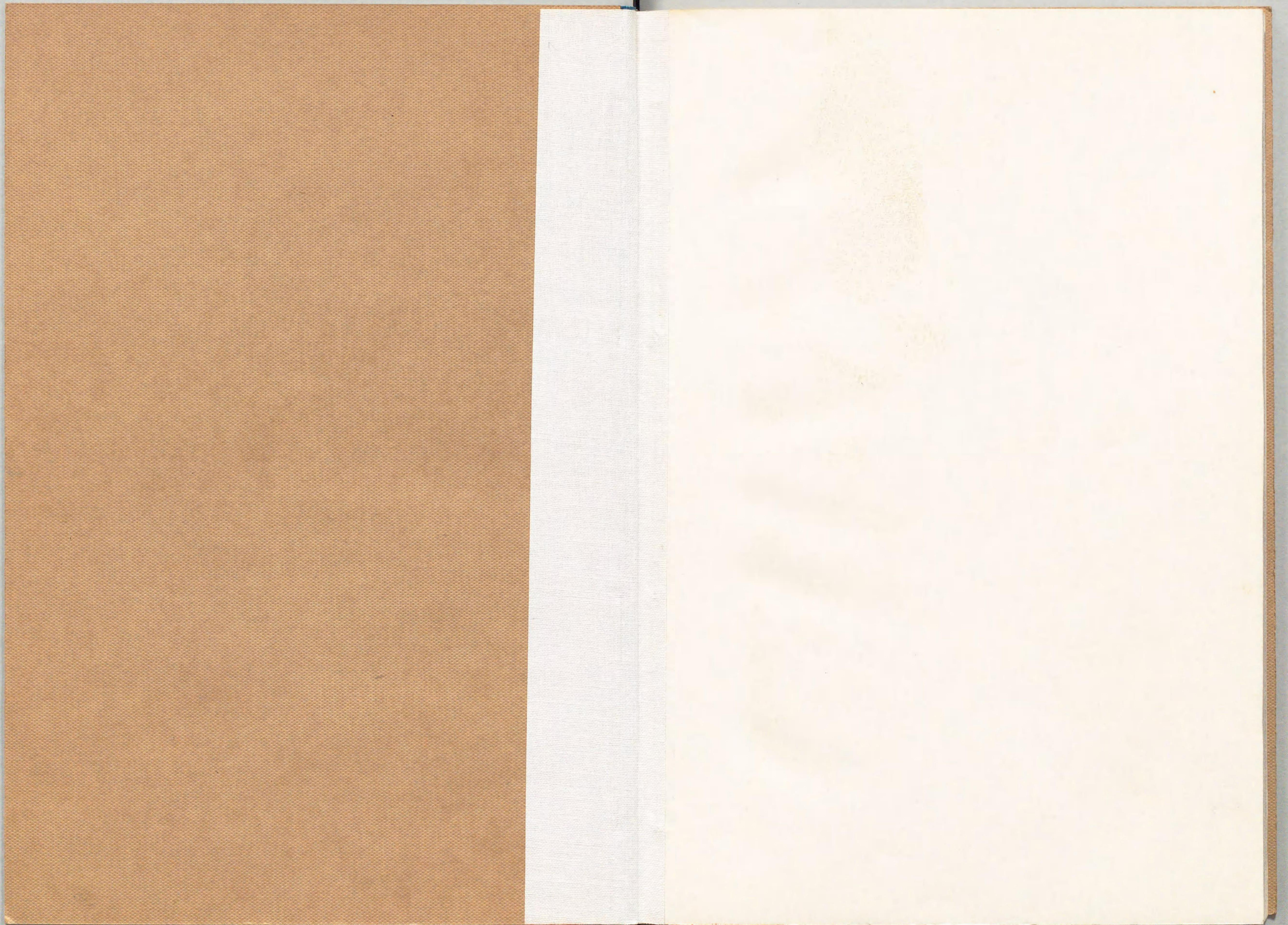
あれ神印白皇后の三韓の役なりまの能龍の授けをいふと成
 とありては朝の事なりとて海をいふことありて海
 征伐事をいふことありて能龍が執ひて哀の後七道の末ありて

てと正化ありてゆく世とて春のあきの朝のよけの如く
いつくしきよきて日本の微光とて島わし輝く
権護のちやの可なりといふも
あふくつそらよ望鶴を記してはて玉郎志の
つ録とてを

弘化三年歲次丙午涂月 藤原芳樹 著

右江朝起原一冊は昔樹大入自筆本各字畢弘化四年四月世良利貞立

Y 213
A





[Illegible white label on the spine]